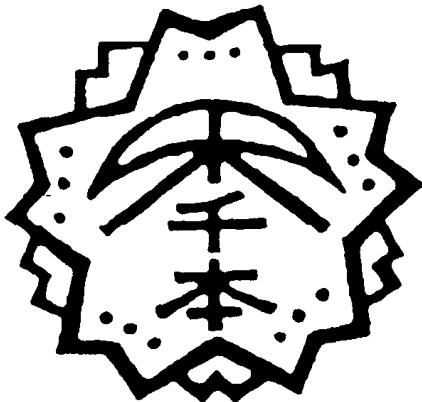


令和 7 年度

運営に関する計画・自己評価



大阪市立千本小学校

令和 7 年 11 月

大阪市立千本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校の学力面での現状について、令和6年度の学力経年調査の国語と算数の結果は、大阪市の平均より下回っている。具体的には、国語の標準化得点の平均が97.6%、算数の標準化得点の平均が97.2%となっている。令和4年度からは向上したが、依然低い水準となっている。

体力テストの結果においては、令和6年度では、男女共に全国・大阪市平均を下回っている。特に、反復横跳びと立ち幅跳び、シャトルランの3種目については、大きく下回る結果になっている。

生活面について、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する児童の割合は79.3%と決して高くない状況である。また、不登校児童の在籍比率は令和6年度で2.1%となっている。

学びを支える教育環境の充実の項目では、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする項目が77%と低かった。また、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を73.1%以上にする項目は76.92%と低い状態である。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

安心・安全な教育環境の実現と豊かな心の育成

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。

令和4年度 78.2% 令和5年度 80.1% **令和6年度79.3%**

- 校内児童アンケート「学校に行くのは楽しいと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上に増加させる。

令和4年度 82% 令和5年度 86% **令和6年度89%**

- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を5%以下にする。

令和4年度 4.6% 令和5年度 1.2% **令和6年度2.1%**

- 校内児童アンケート「おはようございますとあいさつをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上に増加させる。

令和4年度 88% 令和5年度 93% **令和6年度90%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

誰1人取り残さない学力の向上と健やかな心の育成

- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語、算数の平均正答率の対全国比を1.00以上にする。

令和6年度 3年国語 0.92 4年国語 0.96 5年国語 0.84 6年国語 0.89

3年算数 0.96 4年算数 1.02 5年算数 0.73 6年算数 0.87

- 令和7年度の全国体力運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比を1.00以上にする。令和4年度 0.91 令和5年度 0.95 (男子 0.91 と女子 0.98 の平均)

令和6年度 0.91(男子 0.92と女子 0.90 の平均)

【学びを支える教育環境の充実】

教育DXの推進、人材の確保・育成としなやかな組織づくり、家庭・地域と連携した教育の推進

- 令和7年度末の学校児童アンケートの「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について最も肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

- 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教員の割合（基準1）を、80%以上にする。

令和5年度 73.08% (12月時点) **令和6年度76.92%(12月時点)**

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80.2%以上にする。令和4年度78.2% 令和5年度80.1% **令和6年度79.3%**
- 校内児童アンケート「学校に行くのは楽しいと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上に増加させる。令和4年度82% 令和5年度86% **令和6年度89%**
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
令和4年度 4.6% 令和5年度 1.2% **令和6年度2.1%**
- 校内児童アンケート「おはようございますとあいさつをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上に増加させる。
令和4年度 88% 令和5年度 93% **令和6年度90%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
令和4年度 4年国語+0.18 5年国語+0.09 6年国語+0.02
令和5年度 4年国語+0.10 5年国語-0.04 6年国語+0.00
令和6年度 4年国語+0.10 5年国語-0.03 6年国語-0.01
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
令和4年度 4年算数+0.03 5年算数+0.08 6年算数-0.02
令和5年度 4年算数+0.02 5年算数+0.06 6年算数+0.11
令和6年度 4年算数+0.11 5年算数-0.12 6年算数-0.05
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を昨年度以上にする。
令和4年度 70.3% 令和5年度 69.7% **令和6年度74.6%**

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（学校行事等でICT活用が適さない日を除く）
令和6年度7.7%(12月時点)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を76.92%以上にする。
令和5年度73.08% (12月時点) **令和6年度76.92%(12月時点)**
- 地域の方や保護者と連携した学習活動を各学年が年2回以上行う。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立千本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安心・安全な教育の推進】 ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80.2%以上にする。令和5年度 80.1%（令和4年度 78.2%） 令和6年度79.3% ○ 校内児童アンケート「学校に行くのは楽しいと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上に増加させる。 令和5年度 86%（令和4年度 82%）令和6年度 89% 令和7年度90% ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 令和5年度 1.2%（令和4年度 4.6%）令和6年度 2.1% 令和7年度1.25% ○ 校内児童アンケート「おはようございますとあいさつをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上に増加させる。 令和5年度 93%（令和4年度 88%）令和6年度 90% 令和7年度93%	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめのない学校づくりに取り組む。	
指標 ○各学年でいじめの問題を取り上げた話し合いを学期に1回行う。 ○全教職員で気になる子どもや集団の様子を毎学期2回以上交流する。	B
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 誰もが安心して登校できるようにする。	
指標 ○長期欠席児童については、学期に2回以上生活指導部会で話し合いを行う。 ○学期に1回以上、スクリーニング会議Ⅱ等の会議で課題を共有し、関係諸機関と連携して児童・保護者への関わりを行う。 ○全校での芸術鑑賞を年1回行う。	B
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 気持ちのよいあいさつができるようにする。	
指標 ○各学年のあいさつ指導についての実践交流会を学期に1回行う。 ○児童会を中心とした、全校でのあいさつ運動を学期に1回行う。 ○チェックカードにより自己のあいさつを振り返られる活動を学期に1回行う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○最重要項目、取組内容①～③ともに、計画通りに進んでいる。 ○最重要項目は学力経年調査の結果を受けて最終評価につなげる。 ○登校支援を協力している。行きしぶりや不登校児童に対して定期的に連絡し、家庭への訪問を行っている。保護者も含めて支援している。 ○あいさつ運動やあいさつボランティアの効果もあり、元気にあいさつする児童が増えた。	
今後の改善点	
教職員の研修も必要ではないか。 そのまま継続して取り組んでいく。	

(様式2-②)

大阪市立千本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 令和4年度 4年国語+0.18 5年国語+0.09 6年国語+0.02 令和5年度 4年国語+0.10 5年国語-0.04 6年国語+0.00 令和6年度 4年国語+0.10 5年国語-0.03 6年国語-0.01 ○ 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 令和4年度 4年算数+0.03 5年算数+0.08 6年算数-0.02 令和5年度 4年算数+0.02 5年算数+0.06 6年算数+0.11 令和6年度 4年算数+0.11 5年算数-0.12 6年算数-0.05 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を昨年度以上にする。 令和4年度 70.3% 令和5年度 69.7% 令和6年度 74.6%	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰1人取り残さない学力の向上】 子どもが安心して自分を表現でき意欲的に学びあえる授業となるように工夫する。 ・友だちと対話し、学びが深まる授業を展開する。	B
指標 ○ 教材やICTを活用し（毎日）、児童アンケートで「授業を楽しんで取り組んでいる」項目に対し肯定的に回答する割合を90%以上にする。令和6年度89% 令和7年度88% ○ 自分の意見を発表する場や、ペア・グループワーク活動（1日2回）を取り入れ、児童アンケートで「授業で自分の意見を伝え合っている」項目に対し、肯定的に回答する割合を81%以上にする。令和6年度80% 令和7年度80%	B
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 児童の体力向上に取り組み、進んで運動する子どもを育てる	B
指標 ○ 体育委員会による、全児童が運動に親しむ機会を年に2回以上行う。 ○ 体育科に関する校内研修を年間3回以上行い、授業改善を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
最重要項目については結果が出ていないので記載なし。 取り組み内容①音読などの教材の工夫、心の天気、ICTの活用、ペアワークなどに取り組んでいる。今後、目標を達成できるように引き続き進めていく。 取り組み内容②体育委員会の長縄週間などを実施した。計画通りに進んでいる。	
今後の改善点	
ミニ千本タイムの活用、教材・ICTの活用の工夫、ペア・グループワークを工夫し取り入れていく。	

(様式2-②)

大阪市立千本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 <ul style="list-style-type: none">○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(学校行事等でICT活用が適さない日を除く) 令和6年度7.7% (12月時点) 令和7年度38.9%(7月時点)○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を76.92%以上にする。令和5年度73.08% (12月時点) 令和6年度76.92% (12月時点) 令和7年度83.33%(7月時点)○ 地域の方や保護者と連携した学習活動を各学年が年2回以上行う。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 学習者用端末の朝の時間や学習時間の利用を推進する。	
指標 <ul style="list-style-type: none">○ 毎日、心の天気を入力する。○ 毎日、下校までに心の天気の入力を確認する。○ 学力向上部会で毎月1回学習者用端末の活用状況を確認する。○ 每週1回以上、児童の端末を心の天気以外で活用する。	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 効率よく校務を進められるようにする。	
指標 <ul style="list-style-type: none">○ 校務の内容や会議の内容を見直す機会を学期に1回設定する。	B
取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 地域、保護者と連携・協働して環境整備を行ったり、様々な体験活動を実施したりする。	
指標 <ul style="list-style-type: none">○ 地域、保護者、学校が連携し、芝生の環境整備を月に2回以上実施する。○ 地域の方を講師に招き、なにわ伝統野菜を栽培する。○ 地域の人的資源を活用し、落語体験学習を実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○児童の学習者用端末活用日数の割合は昨年度より 31.2% 向上している。
○心の天気の入力を促すことは毎日できている。
○登校時に心の天気が入力できない児童へも帰るまでに確認することで入力できる児童が増えた。
○学力向上部会で毎月 1 回情報共有ができている。
○心の天気以外に「ミライシード」を活用することができている。
○「ミライシード」はポイント集め等のゲーム性が高く、学習効果が高いのか心配。
○勤務時間の上限を満たす教職員の割合は昨年度より 6.41% 向上している。
○校務の内容や会議の内容を見直す機会を 1 学期に SKIP で設定することができたが教職員からの意見は無かった。
○時間外勤務時間の平均は昨年度より長くなっている。
○地域、保護者と連携した活動は予定通り進められている。
今後の改善点
○心の天気の入力を促す放送をお昼に入れる。
○ミライシードの活用状況を確認し、ゲーム性の低い活用の仕方や活用場面を検討する。
○2 学期の会議や校務の見直しの機会に具体的な案を提示して、業務の削減を進める。